

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：13701

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K13192

研究課題名（和文）対応に困る医療系学生や若手医療者への教育的対応法を学ぶ学習プログラムの構築

研究課題名（英文）Development of a learning program to learn how to respond educationally to medical students and young medical professionals who are having difficulty coping with the situation.

研究代表者

川上 ちひろ（Kawakami, Chihiro）

岐阜大学・医学部・准教授

研究者番号：50610440

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：医療系の教育機関や臨床現場において、サポートが必要な学習者（医学、看護学等医療系の教育機関に通う学生および臨床現場で働く若手医療者等）が少なからず散見される。しかし教育者（医療系の教育機関の教員および臨床現場の指導者等）は、そのような学習者にどのようなサポートをすればいいか困っていることが多いことが調査によって明らかになった。そこで現場での現状を踏まえ、教育者にとって利用可能な教育プログラム（5分程度の自己学習用動画教材集）を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教育機関において医療者を育成し卒業させるためには、医療者としての質の保証と社会への説明責任が伴う。サポートが必要な学習者の育成過程では、時に質の保証や説明責任においてどのように証明すればよいか教育者自身が悩むことが多い。そこで、教育プログラムを受講していただき、サポートが必要な学習者度はどのような学習者なのか、サポートの考え方、サポートの具体的方法等を学んでいただくことで、自らの教育活動に生かしていただくことが可能である。したがって、医療者としての質の保証がされた医療者の養成の一助となり得る。

研究成果の概要（英文）：In medical educational institutions (e.g., medical, nursing, pharmacy and others) and clinical settings, there are many learners (e.g., students at medical educational institutions and young medical professionals working in clinical settings) who need support. However, interviews have revealed that educators (e.g., faculty at medical educational institutions and clinical instructors) are often at a loss as to how to provide support to such learners. Therefore, based on the current situation in the field, we developed an educational program (a collection of 5-minute video materials for self-study) that can be used by educators.

研究分野：医療者教育学、学生支援

キーワード：学習者支援 対応に困る 学習者 教育者 学習環境 医学 看護学 発達障害

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

医療者を養成する卒前・卒後教育において、学習者の学習や研修などをサポートすることは、教育者の基本的かつ重要な教育的役割である。特に、医療者教育の質保障や社会的評価を求められる現代では、教育者が対応に困る学習者への適切な対応がますます重要な課題となっている¹⁾。そのような対応法を正式に学ぶ機会がない教育者にとっては、対応に困る学習者に遭遇すると、どう関わったらよいか苦慮する。近年、次のような重大な報告や報道を目にすることが増加している。このような背景から、教育者は患者を守りつつ、学習者に教育的対応を施すための支援スキルを、効率よく獲得できるプログラムの開発が必要不可欠であるといえる。

1)川上ちひろ.看護スタッフが感じる“対応が難しい”学習者とは.看護管理.医学書院 932-939, 2014

2. 研究の目的

この研究の目的を以下にまとめる。

卒前および卒後の医療者教育に携わる教育者がどのようなタイプの対応に困る学習者に遭遇しているのか、そしてその対応の実例と成果等について実態調査をして現状を明らかにすることである。

- ・教育者は、そもそもどのような学習者の対応に困っているのか？
- ・教育者は、どのような教育的対応を施し、どのような結果になったのか？

そのうえで、教育者が利用できる対応に困る学習者に教育的対応を施すための支援スキルを、効率よく獲得できる教育者向け学習プログラムの開発を行う。

- ・教育者が対応法を効率よく学べる学習方法とはどのようなものか？

3. 研究の方法

(1) 医療者教育における、指導者が対応に困る学習者および支援方法の整理

- ・先行研究等による文献検索をおこない、医療者教育における、指導者が対応に困る学習者および支援方法を整理する

(2) 医療教育に携わる指導者の学習者支援の実態調査

- ・研究代表者が関わっている指導者向けのメーリングリストなどで参加者を募集
- ・医学、看護学、薬学、リハビリテーション学など複数の領域にわたる参加者を複数募集
- ・卒前、卒後に所属している、それぞれの指導者を募集
- ・医療教育に携わる指導者に半構造化インタビューを実施

(3) 学習プログラムの開発

- ・(1)および(2)から、指導者にとって有用な学習プログラムを開発する

4. 研究成果

(1) 医療者教育における、指導者が対応に困る学習者および支援方法の整理

先行研究等の文献検索により情報を整理し、論文を作成した。

論文内容としては、「障害者差別解消法により、医療者養成機関においても発達障害およびその特性がある学生への合理的配慮の提供が求められている。合理的配慮とは、できる権利を保障するための配慮であり、教育機関には提供の義務がある。医療者養成機関における発達障害およびその特性がある学生の「入学」、「在学中」、「就職」の面から合理的配慮の考え方と、具体的な支援についてまとめた。発達障害およびその特性がある学生の支援においては、明確な基準の提示、教職員同士の連携・協働、さらに特性のある学生との関わり方の基本の理解が必要である」²⁾である。

ここでは発達障害のある医療系学生に関して論文にまとめた。対応に困る学習者の一部に発達障害のある学習者も含まれていることが推測されるためである。障害がある者に対しては合理的配慮が法律によって求められており、医療系の教育機関や臨床現場でも例外ではない。そのため合理的配慮など社会の動きにも注視し、教育機関や臨床現場において発達障害のある学習者を含む対応に困る学習者への適切なサポートが提供できることが望まれることが確認された。

2) 川上ちひろ、西城卓也、恒川幸司、今福輪太郎、中村和彦．医療者養成機関における、発達障害およびその特性のある学生支援の基本的理解（総説）．医学教育．2019；50（4）：337～346．

（2）医療教育に携わる指導者の学習者支援の実態調査

以下の研究参加者への半構造化インタビューを実施した。

- ・医学（卒前・卒後）
- ・看護学（卒前・卒後）
- ・薬学（卒前・卒後）
- ・歯学（卒前・卒後）
- ・リハビリテーション学（卒前・卒後）

以上のインタビューから、学習者へ対応や教育における教育者の困りごととして、

- ・学習上の困りごとがあること
 - ・学習支援以外の困りごと、例えば遅刻をしてくる、周りとうまくできない、コミュニケーションがうまく取れない、身だしなみが整えられない、などがあること
 - ・発達障害、精神障害があるかもしれない学習者が含まれていること
 - ・臨床実習で患者に対してうまく対応できない学習者がいること
 - ・教育者同士で連携を取るのが難しいこと
- などが挙げられた。

看護教員における発達障害のある（かもしれない）看護学生の教育上の困りごとについてアンケートをもとにまとめた³⁾。看護教員は発達障害のある（かもしれない）看護学生に対してネガティブなイメージを持つことが多く、どのように接したらよいか分からないなど教育上でも困りごとを多く抱えていた。

3) 川上ちひろ、堀田亮．看護教員が感じる発達障害およびその特性がある看護学生の教育支援上の困難と、発達障害のイメージ．CAMPUS HEALTH 2021；58（2）：133～138
それらをもとに、実施したワークショップ・セミナー、論文執筆は以下のとおりである。

<ワークショップ・セミナー>

2018年度

- ・今どきの学生気質と対応（第68回医学教育セミナー&ワークショップ、岐阜6月）
：今どきの学生と言われるような特性を解説し、どのような対応が求められるのか教職協働における学生対応について検討した
- ・発達障害のある医療系の学生・スタッフへの対応（第69回医学教育セミナー&ワークショップ、8月長野）
：発達障害があるかもしれない医療系学生やスタッフなどの、現場における困難とその対応方法について検討した

2019年度

- ・多様なニーズのある医療系学生を教職協働で支援する（第72回医学教育セミナー&ワークショップ、5月岐阜）
：多様なニーズがある医療系学生を入学前から卒業まで、シームレスにサポートするにはどのような対応が求められるのか教職協働における学生対応について検討した

2020年度

- ・学生支援の「お悩み相談室」（第76回医学教育セミナー&ワークショップ、5月岐阜オンライン）
：多様なニーズがある医療系学生の支援における教育者の困りごとについて事例等をもとに検討した

2021年度

- ・学生に寄り添う支援とは～メンタルヘルスに注目して～（第79回医学教育セミナー&ワークショップ、5月岐阜オンライン）
：コロナ禍で大学への投稿などが制限される中、メンタルヘルスに不調をきたしている学生も少なくはない。そのような学生にどのように関わったらよいか検討した
- ・医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える（オンラインセミナー、3月）
司会・全体統括を川上ちひろ・西城卓也
「学習環境や教育者が学習者に与える影響は？」（清水郁夫）
「学習意欲がわかないのです…」（堀田亮）
「勉強してもテストに合格できないんです」（藤江里衣子）
「手先が不器用で技術演習で苦労します」（下井俊典）
：論文執筆者にそれぞれの内容についてミニレクチャーをしてもらい、質疑討論を行った

2022年度

- ・ Student supporter meets IRer ~学生支援とIRの協働の可能性を探る~ (第82回医学教育セミナー&ワークショップ、5月岐阜オンライン)
 - : 学生支援を行う上で、学生全体の慶子と確認するためにIR(Institutional Research)データも欠かせないものである、そのようなデータを扱うIR担当者と学生支援担当者との連携について検討した
- ・ わたしの学習者支援力をブラッシュアップする! (第84回医学教育セミナー&ワークショップ、1月岐阜オンライン)
 - : 学習者支援を行う上で自己の実践をふりかえりながら行うことが欠かせない、学習者支援における経験学習モデルを意識した実践とのはどのようなものか検討した

<論文>

「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」と題した特集論文を執筆し、対応に困る学習者の理解や、対応方法についてまとめた。

医療系教育機関や臨床現場において、教育者化から見て困難な状況にあると思われる学習者に対してサポートする際、学習者のみならず教育者屋や学習環境などさまざまな視点からアプローチすることが重要であることを説明した⁴⁾。学業面でうまく進められない学習者へは、記憶のメカニズムなどの脳機能や心理学的視点から、適切な学習支援が必要であることを説明した⁵⁾。医療場面で欠かせないコミュニケーションが適切にできない学習者におけるうまくできなさの解説や支援方法について解説した⁶⁾。臨床場面で業務遂行がうまくできない医療者における要因の解説や、サポート方法について解説した⁷⁾。座学はできる(すなわち勉強はできる)が実技や演習になるとうまくできない学習者について多重知能理論から説明した⁸⁾。学習に影響する要因を学習環境の件から検討し解説した⁹⁾。

- 4) 西城卓也, 堀田亮, 藤江里衣子, 下井俊典, 清水郁夫, 川上ちひろ. (2022). 1. 困難な状況にある学習者へのアプローチを再考する. 医学教育, 53(1), 23-28.
- 5) 藤江里衣子, 川上ちひろ, 堀田亮, 西城卓也. (2022). 2. 「勉強がうまく進まない, 試験に合格できない医療系学生」の理解と支援. 医学教育, 53(1), 29-34.
- 6) 堀田亮, 川上ちひろ, 藤江里衣子, 西城卓也. (2022). 3. 「臨床実習においてコミュニケーションがうまくできない医療系学生」の理解と支援. 医学教育, 53(1), 35-41.
- 7) 川上ちひろ, 堀田亮, 藤江里衣子, 西城卓也. (2022). 4. 「臨床現場で業務がうまくこなせない新人医療者」の理解と支援. 医学教育, 53(1), 43-48.
- 8) 下井俊典, 川上ちひろ, 西城卓也. (2022). 5. 「座学はできるのに実技は苦手」は、なぜ起きるのか. 医学教育, 53(1), 49-56.
- 9) 清水郁夫, 川上ちひろ. (2022). 6. 学習に影響する外的な問題~医療安全教育を例に~. 医学教育, 53(1), 57-63.

(3) 学習プログラムの開発

2022年度に行ったワークショップ(わたしの学習者支援力をブラッシュアップする!)においてグループワークを行い、学習者支援においてどのようなことが学びたいかをまとめた。そこから学習コンテンツが必要かを洗い出し、利用可能な教育プログラム(5分程度の自己学習用動画教材集)を構築した。

学習者支援のための「まなびば」

オンライン学習システム(Moodle)に、5分以内の動画76本を収録した学習プログラムを構築し、公開したうえで参加者を募集した。

コンテンツの一例として、障害者差別解消法などの法規を解説したもの、発達障害や精神疾患の特性を解説したもの、学習理論を解説したもの、学生時代に起こりやすいトラブルについて解説したものなどが含まれている。

この「まなびば」は、医療者教育に携わっている教育者で興味がある者であれば参加可能である。今後この教育プログラムの効果検証を行いたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 西城卓也、堀田亮、藤江里衣子、下井俊典、清水郁夫、川上ちひろ	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その1困難な状況にある学習者へのアプローチを再考する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤江里衣子、川上ちひろ、堀田亮、西城卓也	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その2「勉強がうまく進まない、試験に合格できない医療系学生」の理解と支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 29-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 堀田亮、川上ちひろ、藤江里衣子、西城卓也	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その3「臨床実習においてコミュニケーションがうまくできない医療系学生」の理解と支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 川上ちひろ、堀田亮、藤江里衣子、西城卓也	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その4「臨床現場で業務がうまくこなせない新人医療者」の理解と支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 43-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下井俊典、川上ちひろ、西城卓也	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その5「座学はできるのに実技は苦手」は、なぜ起きるのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水郁夫、川上ちひろ	4. 巻 53(1)
2. 論文標題 特集「医療者教育における多面的・多角的な学習者支援を考える」その6学習に影響する外在的な問題 医療安全教育を例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上ちひろ、西城卓也、恒川幸司、今福輪太郎、中村和彦	4. 巻 50(4)
2. 論文標題 医療者養成機関における、発達障害およびその特性のある学生支援の基本的理解(総説)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 337 - 347
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上ちひろ、堀田亮	4. 巻 58(2)
2. 論文標題 看護教員が感じる発達障害およびその特性がある看護学生の教育支援上の困難と、発達障害のイメージ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CAMPUS HEALTH	6. 最初と最後の頁 133 138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

医療系の学習者のための「まなびば」 動画教材を利用して学習者支援力をブラッシュアップする！（説明および申し込みホームページ）
<https://urichi1006.wixsite.com/manabiba>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------